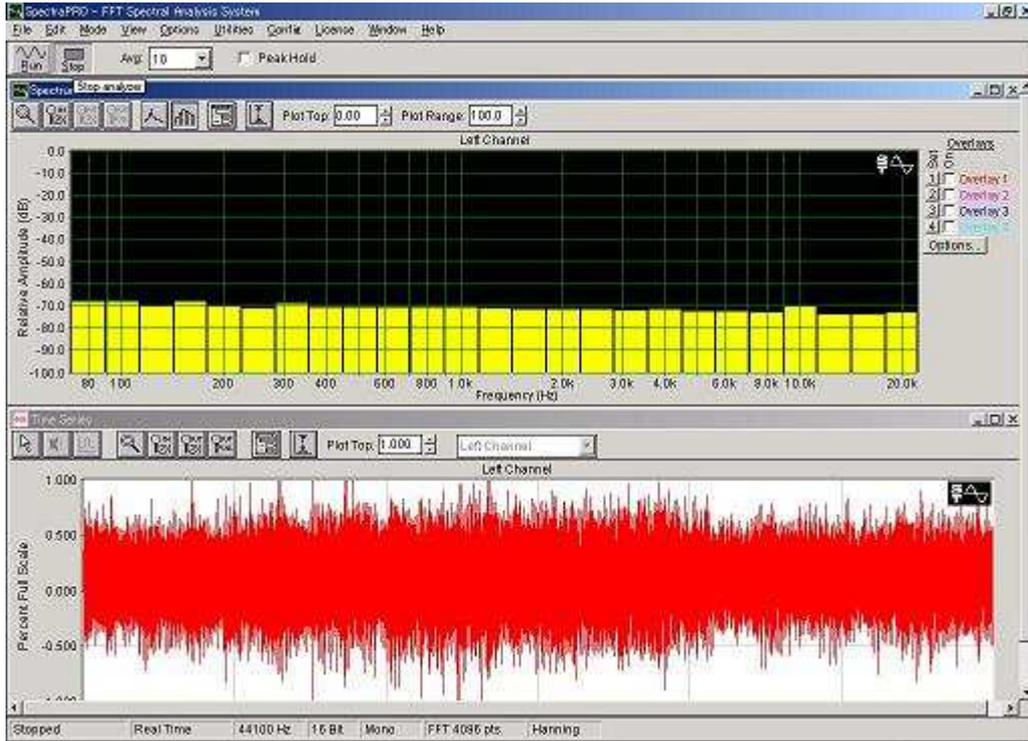
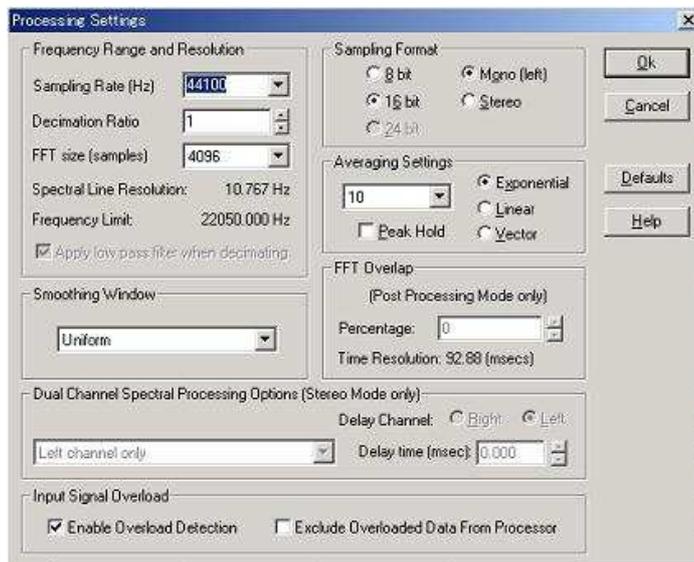


SpectraSoft 騒音レベル比較表示操作手順

- 1) 下図の様に、1/3 オクターブ Spectrum View と Time Series View を設定します。
 - <View>メニューを開いて、「Spectrum」「Time Series」のみをマークします。
 - <Windows>メニューを開いて、<Tile Horizontal>を選択します。



- 2) 測定条件 (Processing Settings) を設定します。

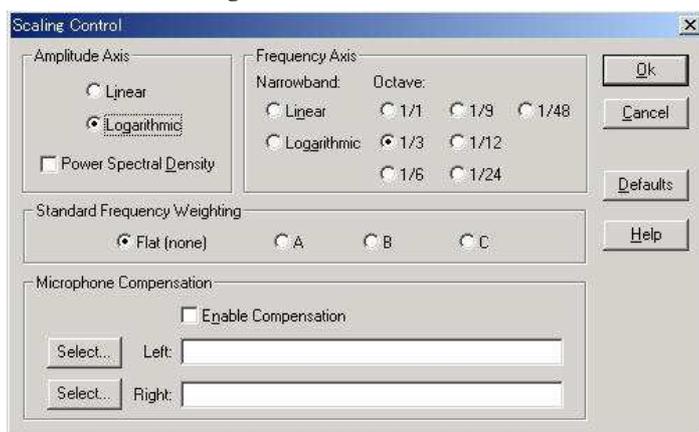


- <Options>メニューを開き、<Settings>を選択します。
- 各パラメータを左図のように設定します。
- 「Sampling Rate」値を小さくすると測定高域限界周波数が下がります。
- 「FFT size」値を小さくすると測定低域限界周波数範囲が上

がります。但し、大きくすると使用するパーソナルコンピュータの能力次第では測定表示スピードが低下しますので適時選択します。

- 「Averaging Settings」値を大きくすると平均値単位が増える為スペクトラム表示がスローになります。ノイズの変動が大きい環境ではやや大きめに設定します。
- 「Smoothing Window/窓関数」値は「Uniform=アンウェイト」です。もしくは「Hamming」が騒音測定に最適です。

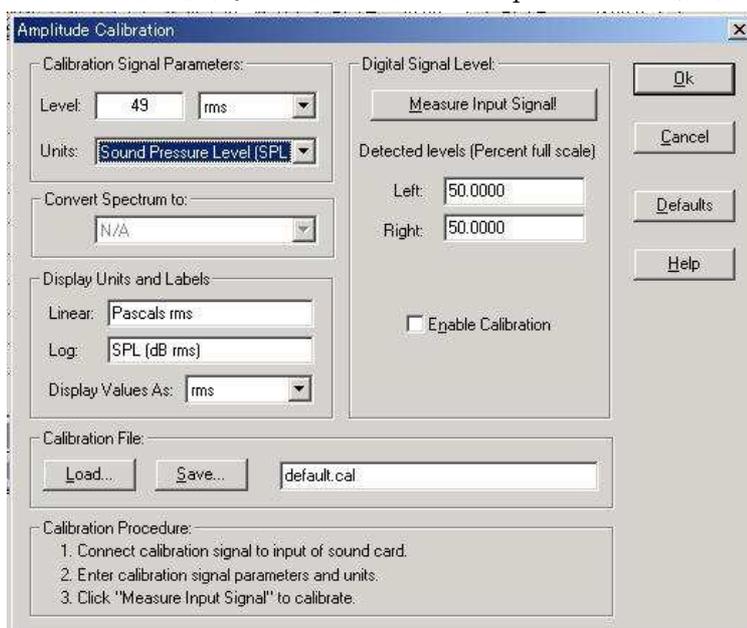
3) 測定条件 (Scaling) を設定します。



- <Options>メニューを開き、<Scaling>を選択します。
- 各パラメータを左図のように設定します。
- 聴感補正を掛ける場合は「A」「B」「C」を選択設定します。
- もし、使用するマイク

に補正を掛ける場合は[Select]ボタンをクリックして所定のファイルを選択設定します。*) 補正ファイルは予め作製し保存して置かなければなりません

4) レベル校正をします。これを行わない限り SpectraSoft で絶対レベル表示を行うことができません。図は 49dB_SPL の校正レベルを使用すると仮定したケースを示します。



します。

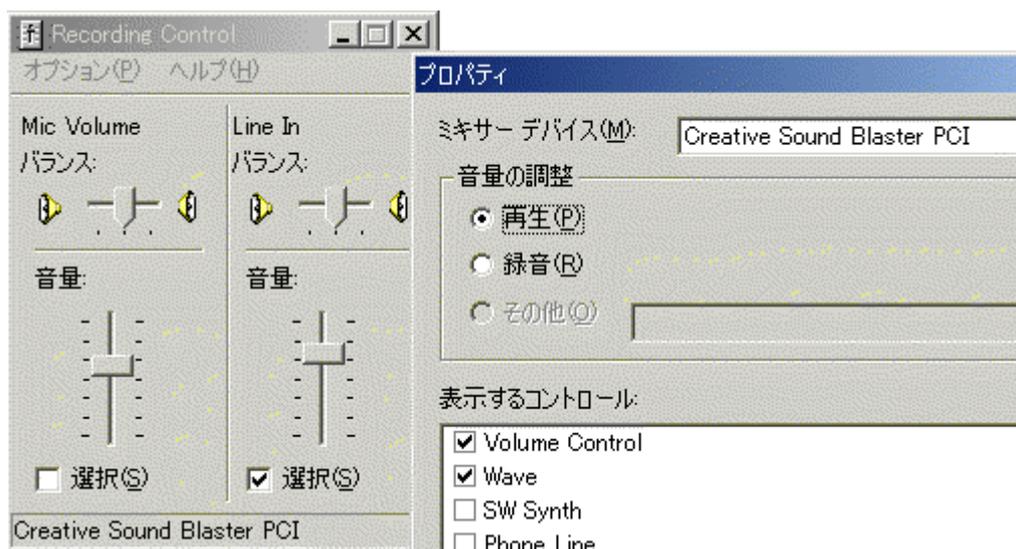
ません。図は 49dB_SPL の校正レベルを使用すると仮定したケースを示します。

- 各パラメータを図の様に選択設定します。
- もし、49dB 以外の校正レベルを使う際は 暫時「Level」欄の値を変更

校正手順：

- マイク（もしくは騒音計）をパーソナルコンピュータの「MIC」あるいは、「LINE」端子につなぎます。*) モノラルでは Left CH が既定
- レベル校正器をマイクに装着し校正音圧を輻射します（騒音計では校正信号を出力します）。
- 上図の[Measure Input Signal]ボタンをクリックします。
- 数秒後、ボタン下欄の「Detected levels Left/Right」の値が自動設定されます。
- 「Enable Calibration」が自動的にマークされます。マークされない場合はマウスクリック操作でマークします。
- この操作により Spectrum グラフの Y 軸表示単位が「dB(SPL)」になります。

注意：パーソナルコンピュータの入力感度は、Windows の<スタート><プログラム><アクセサリ><マルチメディア/エンターテイメント><ボリュームコントロール>で開く「ボリュームコントロール」アプリケーションによって調整できます。もし、レベル不足や過大入力症状が認められる場合は適時調整してから再度実行して下さい。

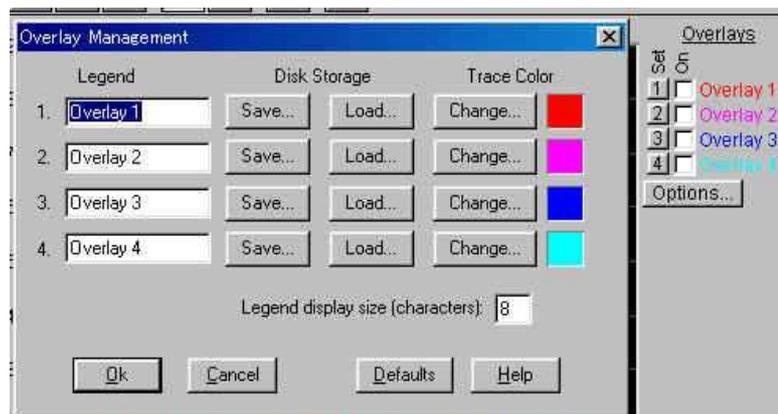


5) 測定操作の手順

- <Mode>メニューで、「Real time」を選択します（録音する場合は「Recorder」）。
- [Run]ボタンをクリックして測定を開始します（「Recorder」モードでは[Rec]）。
- もし、Spectrum View がライン（線）描画モードの場合は、Spectrum View アイコンバー上の[バーグラフ]ボタンをクリックしてモードを切り替えます。
- 必要があれば、「Sampling Rate」「FFT size」「Avg」を適時調整します。
- アイコンバーの「Peak Hold」をマークするとピーク値をホールドして表示します。外すと解除します。
- Spectrum View 右サイド「Overlays」の 1~4 のボタンをクリックすると、その時点

の Spectrum アクティブデータをデータメモリにストレージします。同時に、View 上にライングラフモードで描画します。これは条件の異なる測定結果を比較表示するのに有効です。各データは色別で表示されます。番号ボタンの□マークを外すと表示されません。

- データメモリにストレージしたデータは次の手順でファイル保存することができます。



- 「Overlays」の[Options]ボタンをクリックします。
- 「Overlay Management」ダイアログの対象番号の[Save]ボタンをクリックします。
- 「Create Overlay File」ダイアログで適時ネームを付けて保存します。
- [Load]ボタンを使うと保存ファイルのデータを再表示することもできます。

*）ファイルはテキストフォームです。表計算ソフトなどでも読み込み表示が可能です

	A	B
1	Overlay 1	
2	80	-63.3171
3	100	-61.781
4	125	-64.0341
5	160	-65.1639
6	200	-65.3402
7	250	-66.1866
8	315	-66.7446
9	400	-66.7801
10	500	-66.8308
11	630	-67.4743
12	800	-67.9167
13	1000	-68.6081
14	1250	-68.6374
15	1600	-69.415
16	2000	-69.2956
17	2500	-69.5267
18	3150	-70.302

図は MS-Excel での表示例です。

「A 列」は周波数、「B 列」はレベル値を示します（モノラル時）

注意) 「Recorder」モードでは HD に WAV ファイルを書き込みます。HD スペースを多量に消費しますので空容量に注意して下さい。最大記録サイズは 2GB です。

無断転載を禁じます